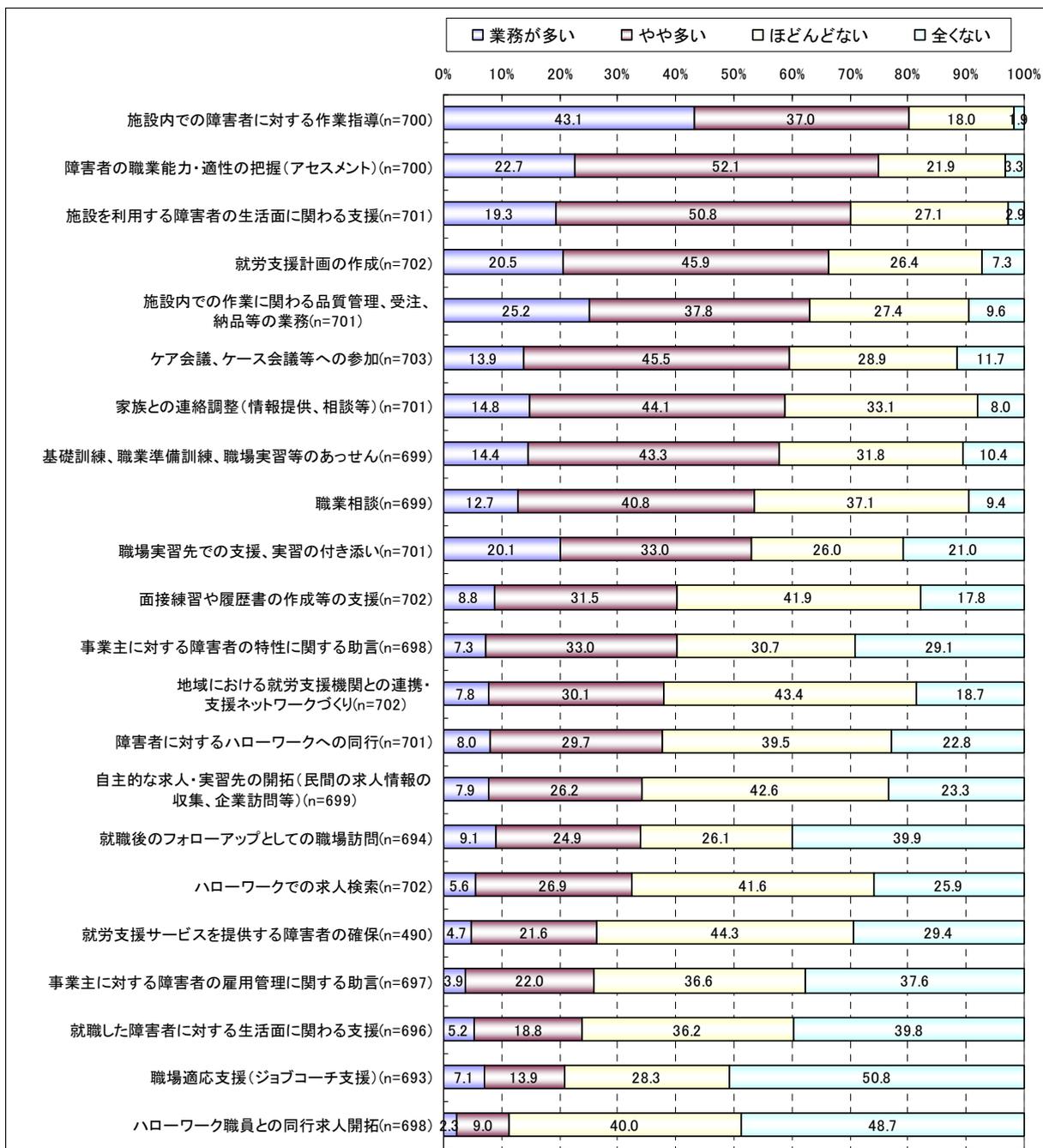


(2) 職務と能力・スキル

〈1〉就労支援業務の業務量

就労支援員として活動する場合の業務量について質問をしたところ、結果は下表のとおりとなった。施設内作業指導が最も多く、次いで、職業能力等のアセスメント、生活面に関わる支援であった。概して、求職活動や求人開拓、定着支援に関する業務の業務量が少なかった。

【図表 2-23 就労支援業務の業務量】

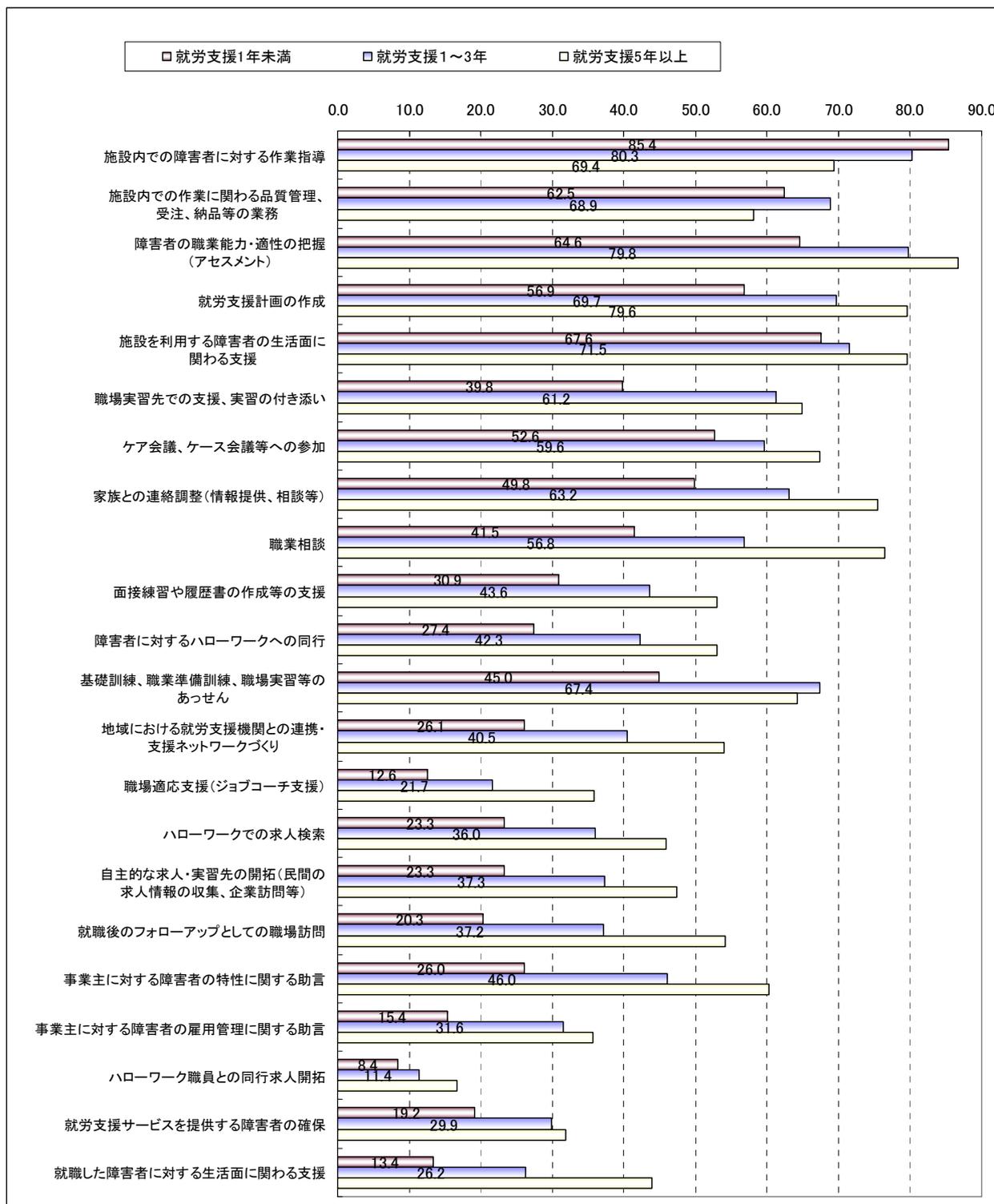


<就労支援経験別の業務量>

就労支援員から、就労支援の経験により「1年未満(n=249)」、「1～3年(n=228)」、「5年以上(n=98)」の3グループを抽出し、分析を行った。

就労支援業務の業務量について「業務量が多い」又は「やや多い」と回答した者の割合の集計をした結果は下表のとおりである。経験が浅い者は施設内作業指導や生活面に関わる業務を多く行っており、経験が長い者は、職業能力等のアセスメントや就労支援計画の作成、職業相談、家族との連絡調整等を行っていた。求職活動や定着支援についても、経験が長い者は業務が多いと回答していた。

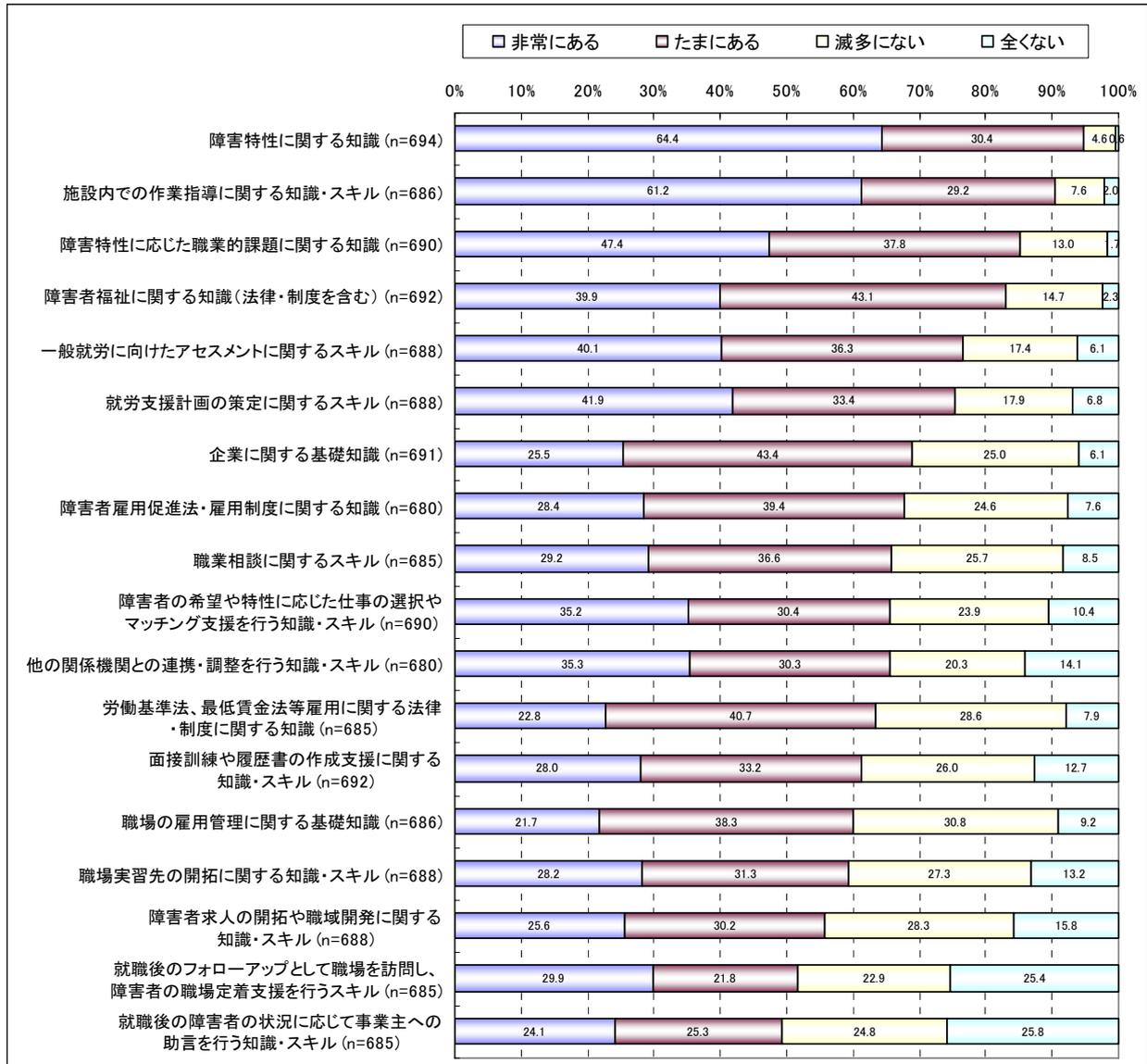
【図表 2-24 就労支援経験別の就労支援業務の業務量】



〈2〉就労支援知識・スキルの活用機会

就労支援員として活動する上で、就労支援に関する知識・スキルをどのくらい活用する機会があるか質問したところ、結果は下表のとおりとなった。障害特性や職業的課題、作業指導や障害者福祉に関する知識・スキルを活用する機会が多い一方で、求人開拓や定着支援に関する知識・スキルはあまり活用する機会がないという結果が見られた。

【図表 2-25 就労支援知識・スキルの活用機会】



<就労支援経験別の就労支援知識・スキルの活用の機会>

就労支援員から、就労支援の経験により「1年未満(n=249)」、「1～3年(n=228)」、「5年以上(n=98)」の3グループを抽出し、分析を行った。

就労支援知識・スキルの活用機会について「非常にある」と回答した者の割合を集計をした結果は下表のとおりとなった。経験が高くなるにつれ、全般的に就労支援の知識・スキルの活用機会が多くなっていった。

【図表 2-26 就労支援経験別の就労支援知識・スキルの活用の機会】

